

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

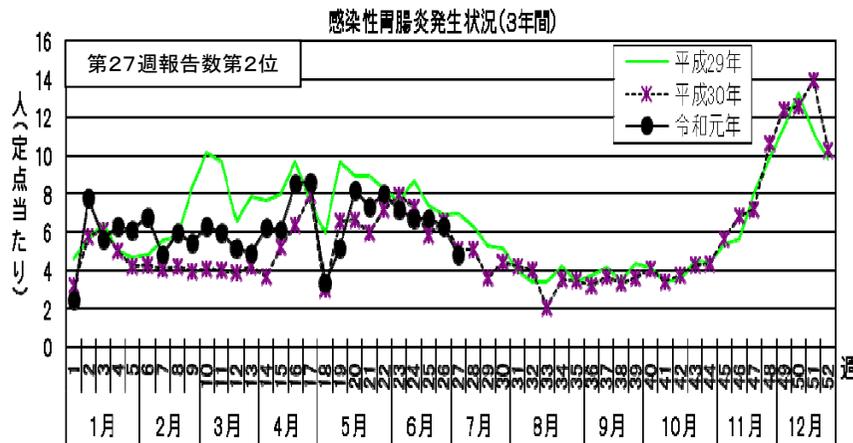
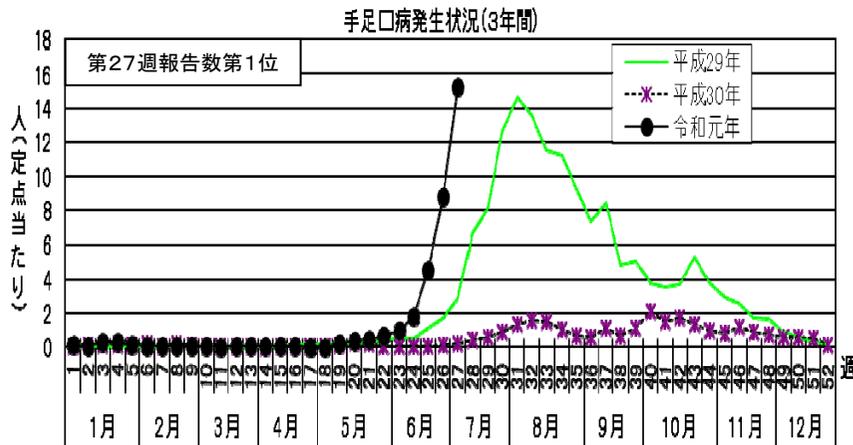
令和元年7月1日（月）～令和元年7月7日（日）〔令和元年第27週〕の感染症発生状況

第27週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)感染性胃腸炎 3)ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は15.27人と前週（8.76人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.84人と前週（6.32人）から減少し、例年より低いレベルで推移しています。

ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.35人と前週（1.81人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。



腸管出血性大腸菌感染症の報告数が増加しています！

腸管出血性大腸菌感染症は、毒素を産生する遺伝子を持つO157やO26などの大腸菌の感染によって起こる消化器感染症です。

5月中旬以降、全国的に報告数が増加しており、集団発生事例や死亡事例なども報告されています。川崎市では、集団発生事例の報告はないものの、6月中旬以降毎週1～2名の患者が発生しており、今年は令和元年第27週（7月1日～7月7日）までに計10件の届出がありました。

例年、気温の上昇とともに患者数が増加するため、引き続き手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは？

【感染経路】

菌に汚染された食品などによる経口感染
患者の便を介した二次感染

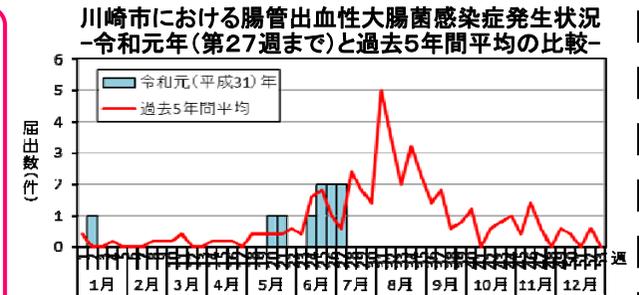
【潜伏期間】

1～14日間（平均3～5日間）

【主な症状】

激しい腹痛、頻回の水様性下痢や血便など
※無症状のこともあります。子供や高齢者では、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症などの重症合併症を起こしやすいといわれています。

激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。



≪予防対策≫

- ✓生肉や加熱不十分な肉を食べない。
(加熱は75℃で1分以上)
- ✓肉を焼く際には、専用の器具（箸やトングなど）を使用する。
- ✓生野菜などは流水でよく洗う。
- ✓食事の前、排便後などは流水で念入りに手を洗う。

